

高津区おはなしアーカイブ

●石塚 靖男 (いしづか のぶお) さん

昭和9年生まれ 84歳
川崎市高津区久地在住



◆生い立ちと家族構成

生まれは久地、先祖代々この土地で農業を営んでおり、私で13代目です。

私は長男で、実の母親は4人の男女を産んだのですが、3人死んでしまい、残ったのは私一人だけだったそうです。その母親も私が4歳のときに亡くなってしまいました。後妻に來たのは、母親の腹違いの妹、叔母さんでした。父と継母とのあいだには男子3人、女子が1人生まれたので、5人兄妹として育ちました。継母は兄妹同じように育ててくれたけれど、やっぱり実の親から言われるのと、継母から言われるのとでは同じ言葉でも受け止めるほうは全然違う。辛いときもありました。実母は、裏のお婆さんの具

合が悪くなったので、そのお見舞いに行っていて、感染したのだと聞かされました。

今ではね、病名が解れば大概の病気は治療できるけど、昔は病名もなかなか解らなかつたからね。実の母親の写真で残っているのは、これ一枚きりです。



◆小学校

入学したのは高津尋常小学校。ここからだと歩いて15分くらいかかった。同学年は3～4クラスで、男だけのクラスと女だけのクラスに分かれていました。

小学校の頃は雨が降ると裸足で学校に行ったこともありました。行きはいいのよ、雨が降っているから。でも帰りになると、カンカンに晴れて、土が乾いて危ないよね(笑)。小学校には、着物じゃなくて洋服で通っていました。その当時、靴は履いていなかったかもしれません。なにしろ金がないから。

戦争が激しくなると高津小学校からよそに移れと言われました。疎開だよ。それで、多摩区の菅のほうにお婆さんの家があったので、そこに住所だけ移して、実際にはうちから通いました。南武線に乗って通うのは大変だったな。

一番困ったのはね、多摩区の学校では、授業で水泳をやるんだよ、多摩川が近いからね。僕はその当時はまだ泳げなかつたんだ。でね、「今日ちょっと腹が痛い」

とかごまかして、泳ぎに行かなかったんだ。でも、いつまでもさぼるわけにはいかないから、近所の久地円筒分水のところで練習をして、泳げるようになりました。

二ヶ領用水には年中飛び込んで泳いだり、円筒のところに潜ったりして遊びました。ある時期、水を仕切るコンクリートの外壁に、夜中の2時頃になるとエビが20センチくらいの幅にば〜っと上がってきていたの。それをさ〜っとすくってね。真っ白できれいな3cmくらいの小エビでね、いっぱい上がってきていた。家族みんなで食べて美味しかったです。

終戦と同時に高津小学校に戻りました。私が11歳、5年生の時でした。

◆戦争

戦争中は、畑の広さに応じて芋や穀物を供出さなくてはいけなかった。うちも農家だから作っていた芋、米、麦を供出させられました。供出用の芋はね、沖縄の苗で作って、目方で出していました。家で食べるくらいは残せましたけど。作った野菜は供出して、あとは配給を受けていました。いつだったか油を絞った豆かすが配給になったことがありました。それを砕いて、煮て食べたら、お腹が痛くなった。あれは今でも忘れられないよ。どこでどうやって作ったのか、油を絞った後のかすなんだよね、それが配給になるんだ。自分で野菜を作っていたのに…。お米だけでなく、食料はなんでも配給。戦争中は親父も（やみ）米の買い出しに行っていた。「今日は、電車のなかで捕まっちゃった」って言っていたこともあつ

た。大変な思いをしていたんだね。

空襲警報が鳴ると、久地神社の裏山に掘った防空壕に逃げ込みました。空襲解除になって、神社の裏の高台に出て周囲を見渡すと、東京の大森から蒲田にかけて、真っ赤に燃えていたことがありました。うちのすぐ前に、ヒューム管を2本並べ掘った土を積んだ簡易の防空壕があったんだけど、一度だけ、防空壕まで行くのが面倒で「今日は遠くまで行くのがいやだ」って、その中に入っていたら、山の上の兵舎をめがけて焼夷弾が落とされた。兵隊が騒いでいるんだよね、赤いのがチラチラ落ちてくるって。そんな思い出があります。

玉音放送は自宅で聞きました。天皇陛下の放送を正午にやるというのでね、ラジオをみんなで聞いてね。

そのとき戦争に負けたら散々酷い目に会うのだと思った。けどアメリカのマッカーサーが温和な人でさ、助かったんだよね。ありがたいことだと思ったよ。

戦争には叔父さんが二人行きました。一人は帰ってこない。後から行った叔父は帰還しました。

◆子どもの頃の思い出

おやつというか、甘いものはほとんど食べなかったけれど、サツマイモを薄く切って、鉄板で焼いたものを食べさせてもらいました。

小学校にあがる頃から近所の子ども達でチームを作って野球をやっていた。ボール投げの練習はね、うちの2階に柱があつて、その横が土壁になっていてね、柱に向かって下からボールを投げるの。

外れると、壁に穴があいちゃうから真剣。それから、玄関脇にマンホールへの雨樋がおいてあるの、外れると脇に行っちゃうからね、もう正確に投げるように癖をつけていた。ポジションはいろいろやったけど、ピッチャーを長くやったかな。中学校でも硬式の野球部に入りました。練習場は砂利がいっぱいあるところで、ノックされるとボールがどっちに飛ぶかわからない、跳ねちゃって危なかった。練習のときだけネットを張っていました。私は軽くて小さかったから、身体の大きな人が肩に乗ってくれてネットを張る係だった。その頃は川崎に中学校は6校あったから、シーズンになると対抗試合をやっていました。外野でボール拾いをしているでしょ、すると、学校の応援団がみんな振り返って見るの、球拾いだからいやだなーって、思ったこともあった。野球は、学校を卒業した後も40歳くらいまでやっていた。ゴルフをやるようになってからはやめちゃった。

◆小学校を卒業後

川崎商業に進学しました。兵舎の跡地で、今の虎ノ門病院がある辺り、梶ヶ谷の奥。ここから歩くと45分くらいかかったかな、溝口神社の脇を通って、大山街道、役所の左側の細い道を上がって、毎日通いました。途中で、学校が矢向のほうに移ったんだけど、そのときはじめて女性も混じったクラスになった。そのときにね、アメリカの関係者が学校に視察に来たよ。でも、男女一緒といっても教室は分かれているんですよ。

中学校には弁当を持って行きました。

その頃のうちの弁当は麦が混ざった麦ご飯。みんなからひやかされた。ほかの人は白いご飯を持ってきていたからね。

英語の先生から「ちょっと野菜か何かを持ってきてくれよ」と言われたこともあり。うちが農家だったのを知っていたから、そう言われて持って行きました。英語も習ったね。ある程度覚えたら演壇で歌を歌えって言われたの。農家だから英語なんていやだって逃げ出しちゃった。逃げたらものすごく怒られた。英語なんて一生喋ることはないと思っていたんだよ。

中学校を卒業してからは橘高校の夜学に通いました。昼間は働いて、夜は学校。電車で通学していました。

◆戦後：街の様子、暮らしの様子

昔はうちの縁側から溝口神社が見えていた。大山街道にある森もここから見えていたな。でも、国道246ができてからは、あつという間に見えなくなっちゃった。

今、20階建のマンションがある辺り、あそこに屋台のような店があった。「かたや」のお爺さんのお店で、駄菓子を売ってました。その先の道が急カーブしていたから、戦争直後はそこに来たジープが川に飛び込んだこともあったよ。アメリカにはきつとあんな急カーブないよね（笑）。そこには、野菜を積んだ貨物が突っ込んだこともあって、円筒分水まで流れてきて、みんなで拾ってあげたの。この辺りではお店はそこだけ。あとはみんな溝口の駅の裏側に買いに行っていた。小さいお店が並んでいてね。だいたいそ

ここで買い物をしていたと思う。ただ、大雨の時に商店街から新城の駅の南側まで全部水浸しになってしまったの。それで、トンネルを作ったんだけど、そのトンネル工事のおかげでこの辺りの田んぼには水が来なくなってしまって、稲作はできなくなりました。

子どもの頃はお祭りでは子ども御輿で回って、それからお参り。屋台は出ていましたね。昔は舞台があって、地元の人が教わって芝居をやっていました。

◆今関わっていること

うちは代々日蓮宗だから、子どもの頃は月に1回お題目講に参加していました。昔はお葬式でも、太鼓を叩いて「南無妙法蓮華経」というお題目を唱えていたんです。その太鼓もうちでずっと預かっていたのですが、ここら辺りでお題目もなくなっただけで、いろいろ話し合っただけで、お寺にお返ししました。

年に1回お会式行事があるんだけど、私が参加したのは18歳の時からでした。忙しかった農家がね、10月12日から11月28日までに方々のお寺を廻るんです。3箇所を1日で廻ることもありました。自分の名前が入った袴纏を着て、鉢巻きをし、纏を振ってね。

今年も、池上本門寺には50人くらいの予定で、マイクロバス2台で参ります。

溝口には全部で600近い檀家がいる、久地だけでも270くらい。昔は鳶とか土木とか左官だとか、そういう仕事の人が多かったから、平日の行事にも参加しやすかったけど、今はみんな勤めているから、時間が間に合わない。だから人を

集めるのが大変です。私もこうして役員を務めるのはあと3年だよと言っています。

(平成30年10月1日取材)